

(様式第2号)

SDGsの達成に向けた重点的な取組み宣言書

作成日:	令和6年6月27日
事業者名:	和食バル ふわり

三側面	SDGsの達成に向けた重点的な取組み	関連するSDGsゴール (最大3つ)	実績	指標・目標	
環境	日々の仕入れの段階から食品のロスを減らす意識をし、「2. 飢餓をゼロに」のSDGs活動を実施。一例として、過剰生産となったトマトを使用した「トマトの煮浸し」等の限定の特別メニューの開発・販売等を行う事で食品廃棄の削減に取り組んでいます。	② 飢餓をゼロに	市場にて生産者の声を聞き、余剰分の食品を活用した新メニューの開発。 在庫管理の徹底による食材ロスの軽減。	指標	余剰分の食品を活用した新メニュー開発数
				目標	2030年までに最低でも年間1種類以上の新メニューの開発を行う。
社会	スマレジなどのIT技術を活用した取り組みにより業務効率化を行い、従業員の有給取得率の増加を行っております。	⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう、⑧ 働きがいも経済成長も	スマレジ導入前（2022年度）の従業員の有給取得は、年間5日でしたが、スマレジ導入前（2023年度）の従業員の有給取得率は、年間7日を達成。	指標	従業員の有給取得日数
				目標	2030年までに従業員の有給取得は、年間10日以上も目標とする。
経済	和食バルふわりでは、従業員に働く生きがい「働きがい」を感じていただけるように「暖簾分け制度」や「技術による+の賃金制度」等の待遇改善を適宜行う事で「8. 働きがいも経済成長も」のSDGs活動を実施しています。	⑧ 働きがいも経済成長も	2024年4月に社内規則を変更・記述化し、「暖簾分け制度」や「技術による+の賃金制度」を制定。	指標	従業員の働き方の変更、ワークライフバランスの重視に伴う働きがいの満足度の上昇
				目標	半年に一度の従業員との面談において、ワークライフバランスへの意識と働く意欲に関する項目を追加。 5段階の評価（1が最低5が最高）をしてもらい、平均4点以上を目標とする。

ガバナンス	チェック	SDGsの達成に向けた重点的な取組みが従業員に共有されており、かつ達成するための仕組みが組織内に構築されている(PDCAサイクル等)。 <具体的な内容を記載> ■重点項目についてホームページへの記載と従業員への周知を行っております。 ■半年に1度の面談の際に重点項目のSDGs活動についてのヒアリングと意見交換・意識共有を行い、PDCAサイクルを回す仕組みとしています。
	<input checked="" type="checkbox"/>	